

平成27年度

第2回野洲市環境審議会

平成27年11月20日

議論のポイント

- 施策の方向性とプロジェクトとの整合が適切か
- プロジェクトの再編案の考え方が適切か
- 成果について評価するための指標設定が適切か

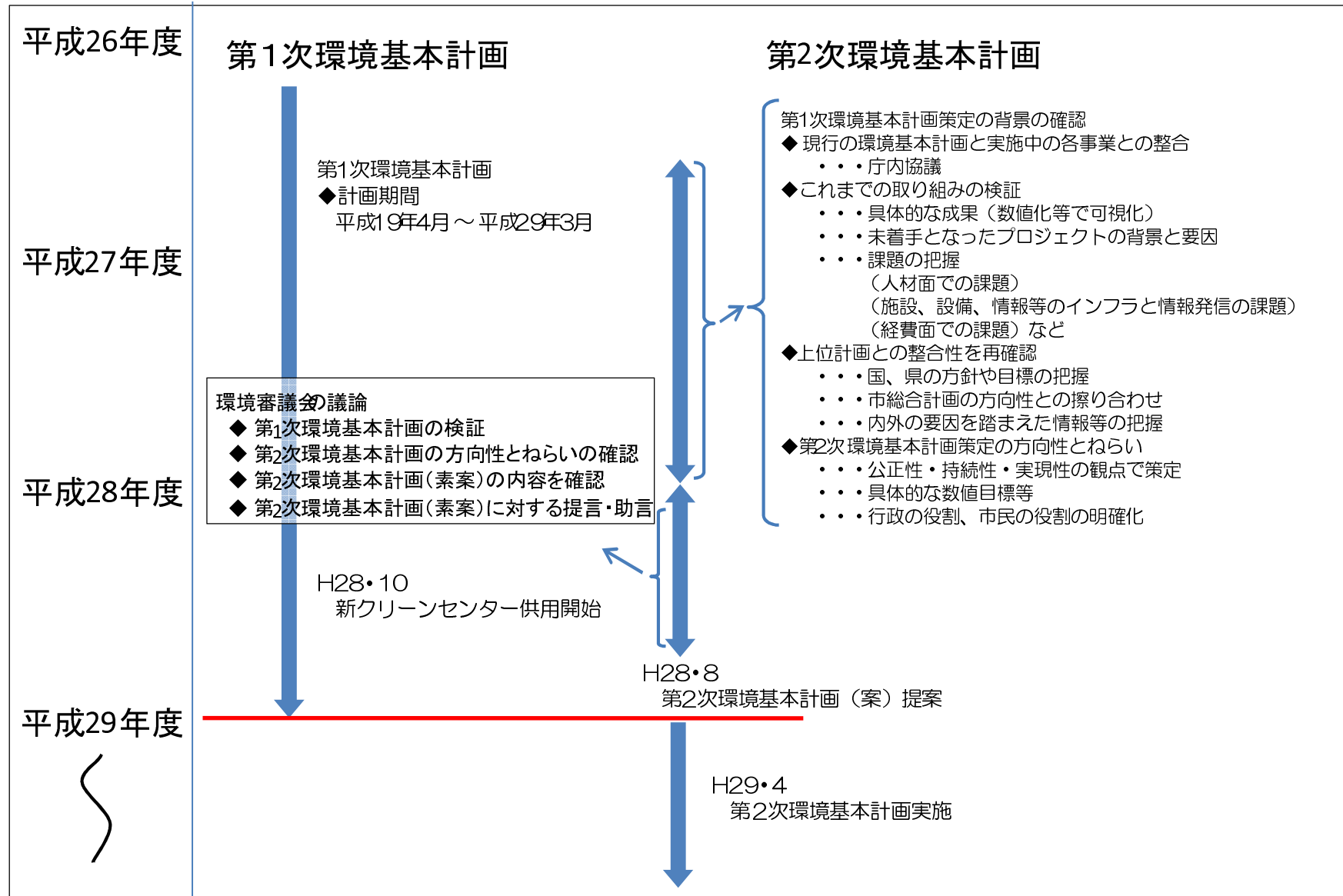
資料の構成

1. これまでの検討の経緯 3 ~ 7
2. プロジェクト組み立ての考え方 8 ~ 9
3. 重点プロジェクトの提案 10 ~ 26
4. 重複事業の統合による実効化（案） 27 ~ 28

1. これまでの検討の経緯

1. これまでの検討の経緯

スケジュール



1. これまでの検討の経緯

- 第2次環境基本計画策定のステップ（平成26年第1回環境審議会資料に加筆）

- 現行の環境基本計画策定の背景等の確認
 - 現行の環境基本計画と実施中の各事業との整合
 - これまでの取り組みの検証
 - 上位計画との整合性等
 - 第2次環境基本計画の基本的事項の検討
 - 第2次環境基本計画の施策体系
 - プロジェクトの整理
 - 重点プロジェクトの検討
 - 評価指標の妥当性
 - 計画の進行管理と検証の方法
 - 骨子（案）の確認
- 平成26年度実施
- 前回の審議会で実施
- 本日の検討事項

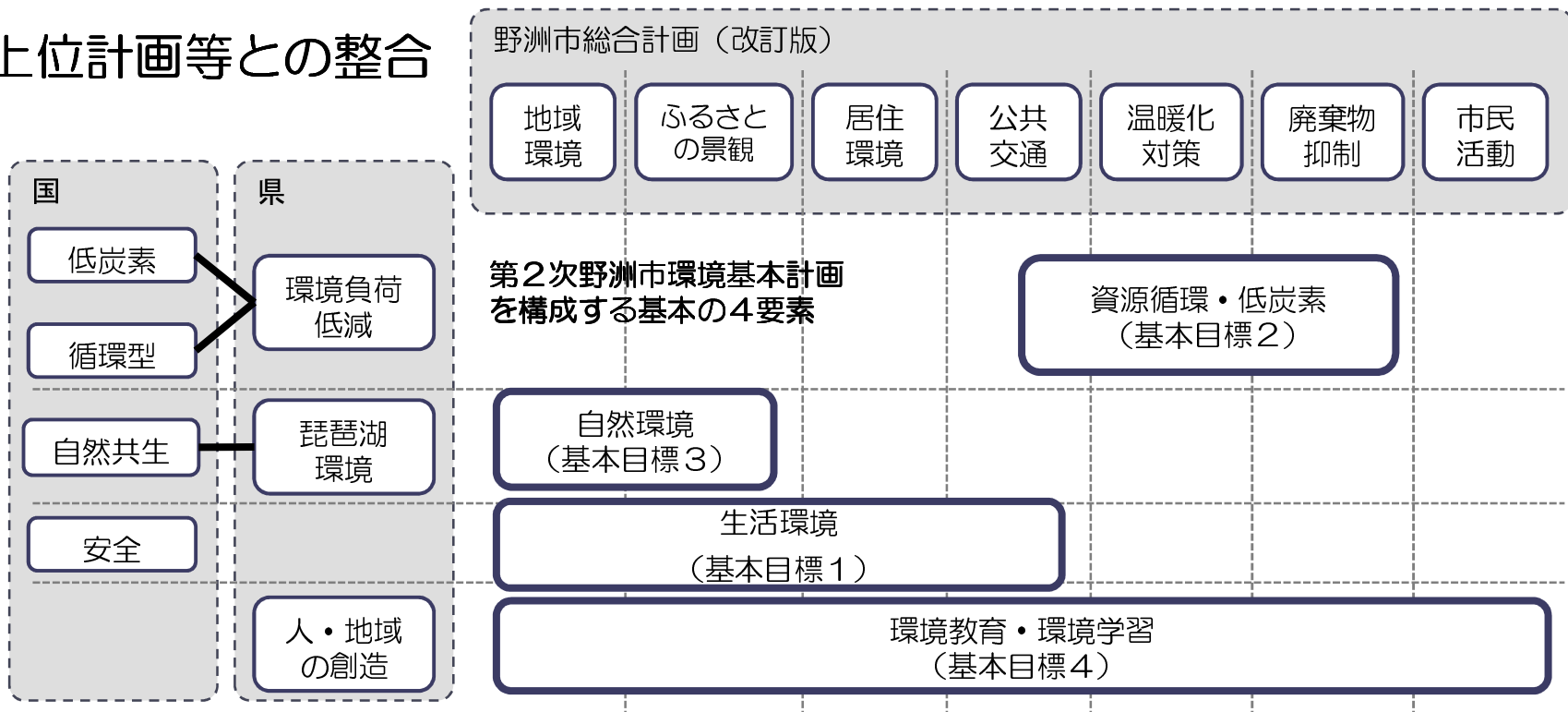
1. これまでの検討の経緯

・第2次環境基本計画策定の方向性とねらい

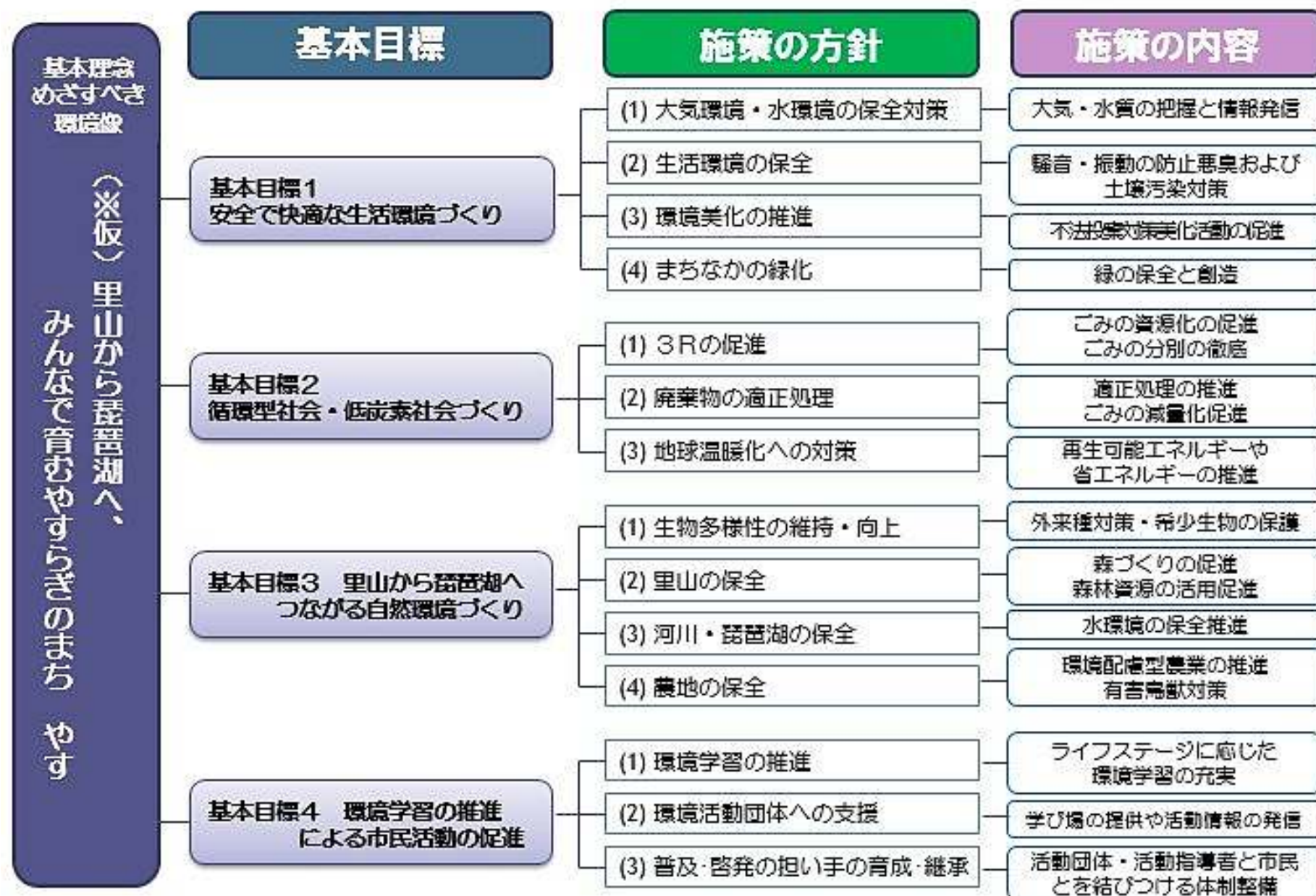
《方向性》 技術の進歩と社会情勢の変化に応じ、法・制度等を踏まえた上で計画策定に取り組む。

《ねらい》 これまでの取り組みを評価したうえで、公平性・持続性・実現性の観点でゼロベースから組立

・上位計画等との整合



1. これまでの検討の経緯



2. プロジェクト組み立ての考え方

2. プロジェクト組み立ての考え方

基本理念めざすべき環境像

(※仮) 里山から琵琶湖へ、みんなで育むやすらぎのまち やす

基本目標

施策の方針

施策の内容

- ① 社会情勢の変化に応じた新たな視点を追加
- ② 重複事業の統合により実効性を高める
- ③ 良好で持続可能な取り組みを継承
- ④ 積極的な事業連携の推進

3. 重点プロジェクトの提案

3. 重点プロジェクトの提案

基本理念
めざすべき
環境像

※仮）里山から琵琶湖へ、
みんなで育てよう！のまち
です

基本目標

施策の方針

施策の内容

基本目標 1
安全で快適な生活環境づくり

(1) 大気環境・水環境の保全対策

大気・水質の把握と情報発信

(2) 生活環境の保全

騒音・振動の防止悪臭および
土壌汚染対策

(3) 環境美化の推進

不法投棄対策美化活動の促進

(4) まちなかの緑化

緑の保全と創造

重点プロジェクト(案)

1.健康で快適なくらしを守るプロジェクト

2.きれいなまちを守るプロジェクト

3.まちなかの緑づくりプロジェクト

No.1 健康で快適なくらしを守るプロジェクト

方 針	大気環境・水環境の保全対策 生活環境の保全
内 容	大気・水質の把握と情報発信 騒音・振動の防止悪臭および土壤汚染対策
主 体	◎事業所 ◎市
取り組み	○事業活動による環境負荷軽減を目的とした環境保全協定の推進を図ります。 ○大気、水質、騒音、振動などについて、継続的に環境測定や調査（モニタリング）を行い、その結果を公表します。 ○光化学スモッグやPM2.5などの健康への影響が懸念される情報を収集・発信します。 ○特定建設作業などの事前届出を確認し、周辺環境に配慮します。
評価指標	環境測定、測定結果の公表、苦情件数の減少
現行の分野	まち・くらし分野
現行プロジェクト	事業所環境保全取り組み向上プロジェクト
評価・再編	市内の各事業所との環境保全協定締結100社、環境研修会の実施 現在の活動を継承

No.2 きれいなまちを守るプロジェクト

方 針	環境美化の推進
内 容	不法投棄対策、美化活動の推進
主 体	○市民 ○事業所 ◎市
取り組み	○自治会や市民団体の自主的な美化活動や、ごみゼロ大作戦・県下一斉清掃などの美化活動に取り組む。 ○不法投棄の監視、パトロールを行うと共に、散在性のごみや放置自転車などが出ないように啓発を図ります。 ○市民や事業所によるボランティア清掃活動を支援し、まちの美観を維持・向上します。
評価指標	ボランティア清掃活動件数やそのごみ回収量、美化活動支援数 不法投棄件数の減少
現行の分野	なし
現行プロジェクト	なし
評価・再編	なし

No.3 まちなかの緑づくりプロジェクト

方 針	まちなかの緑化
内 容	緑の保全と創造
主 体	◎市民 ○事業所 ○市
取り組み	○住宅や事業所の敷地内に一定の緑地を設け、都市部の緑化を図ります。 ○市民の憩いの場となる公園にある樹木等を、良好な状態で維持します。 ○野洲川河畔の森林を保全し、市民による森づくりを支援します。
評価指標	緑地の維持管理、市民1人当たりの緑地面積、 野洲川河畔の整備面積
現行の分野	自然分野
現行プロジェクト	まちなかの緑ボリュームアップ大作戦 河畔林の再生 鎮守の森再生
評価・再編	市民活動団体による緑化活動、実践的な講座 現在の活動を統合し継承

3. 重点プロジェクトの提案

基本目標

施策の方針

施策の内容

基本理念
めざすべき
環境像

(※仮) 里山から琵琶湖へ、

みんなで育むやさしきまち やす

基本目標2
循環型社会・低炭素社会づくり

(1) 3Rの促進

(2) 廃棄物の適正処理

(3) 地球温暖化への対策

ごみの資源化の促進
ごみの分別の徹底

適正処理の推進
ごみの減量化促進

再生可能エネルギーや
省エネルギーの推進

重点プロジェクト(案)

4.ごみの資源化プロジェクト

5.ごみ減量プロジェクト

6.地球温暖化対策推進プロジェクト

No.4 ごみの資源化プロジェクト

方 針	3Rの推進
内 容	ごみの資源化の促進、ごみの分別の徹底
主 体	○市民 ○事業所 ◎市
取り組み	○可燃ごみに混入している「雑がみ」の資源化を推進します。 ○小型家電の回収による資源化の啓発及び推進を図ります。 ○リユースの啓発と推進を図ります。 ○ごみ分別の目的を明確にし、資源化の向上に取り組みます。 ○廃食油を回収し、再生した製品を使用することでリサイクルに取り組みます。
評価指標	古紙（雑がみ）の資源化率、小型家電の回収量、一般廃棄物の総排出量の減量、廃食油の資源化率
現行の分野	まち・くらし分野
現行プロジェクト	天ぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう お得で楽しいリユースステーションをつくろう
評価・再編	啓発講座、廃食油の回収 現在の活動を継承

No.5 ごみ減量プロジェクト

方 針	廃棄物の適正処理
内 容	適正処理の推進、ごみの減量化推進
主 体	○市民 ○事業所 ◎市
取り組み	○事業所から排出される事業系一般廃棄物の減量指導及び助言を行います。 ○ごみ分別の目的を明確にし、ごみ減量化に取り組みます。 ○生ごみ処理の減量に向けた啓発と支援を行います。 ○グリーン購入の啓発を図り、環境負荷軽減に配慮した商品を購入します。
評価指標	古紙（雑がみ）の排出量、小型家電の回収量、一般廃棄物の総排出量の減量 啓発講座及びフォーラムの参加拡大
現行の分野	まち・くらし分野
現行プロジェクト	ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち 生ごみ資源化システムづくり
評価・再編	レジ袋削減・マイバッグ持参推進キャンペーン 啓発講座、フォーラム実施 現在の活動を継承

No.6 地球温暖化対策推進プロジェクト

方 針	地球温暖化への対策
内 容	CO2削減や省エネルギーの推進
主 体	○市民 ○事業所 ◎市
取り組み	○慢性化した道路渋滞を解消するため、国道8号バイパスの早期実現に向けて国・県と共に取り組みます。 ○市内循環バス（おのりやす）の利便性向上に取り組みます。 ○身近に取り組める節電や省エネ行動の啓発を行い、エネルギー使用量削減効果を可視化したうえで公表します。 (※)○新クリーンセンターのサーマルリサイクルによる余熱を利用します。 ○エコドライブの啓発により、CO2排出削減に取り組みます。
評価指標	国道8号バイパスによる環境負荷軽減効果 循環バス利用者数 節電によるエネルギー使用量減少とCO2排出削減効果の可視化 (※)新クリーンセンター余熱利用によるエネルギー有効利用率 エコドライブセミナーの受講実績
現行の分野	まち・くらし分野
現行プロジェクト	一人ひとりが自動車社会を見直す「エコドライブ活動」 バス利用大作戦 自動車を利用しなくても、安心安全安価でクリーンな市内移動が楽しめる交通体系整備
評価・再編	実施できていない部分あり エコドライブセミナーの実施 統合し再編

※平成28年10月1日供用開始のごみ焼却施設を対象とする。

3. 重点プロジェクトの提案

基本理念
めざすべき
環境像

(※仮) 里山から琵琶湖へ、
みんなで育むやすらぎのまち やす

基本目標

基本目標3 里山から琵琶湖へ
つながる自然環境づくり

- (1) 生物多様性の維持・向上
- (2) 里山の保全
- (3) 河川・琵琶湖の保全
- (4) 農地の保全

施策の方針

施策の内容

外来種対策・希少生物の保護

森づくりの促進
森林資源の活用促進

水環境の保全推進

環境配慮型農業の推進
有害鳥獣対策

重点プロジェクト(案)

7. 生きものを育む川づくりプロジェクト

8. 里山を守り育てるプロジェクト

9. びわ湖を守ろうプロジェクト

10. 環境にやさしい農地の活用プロジェクト

No.7 生きものを育む川づくりプロジェクト

方 針	河川環境保全 生物多様性の維持・向上
内 容	外来種の駆除、希少生物の保護、 水環境の保全
主 体	◎市民 ○事業所 ◎市
取り組み	○特定外来生物の駆除や在来生物の保護に取り組みます。 ○琵琶湖固有種のビワマスが生息できる環境づくりを推進し、河川環境の保全に取り組みます。 ○生きもの観察会やエコ遊覧等を通じて、河川環境を知る機会を提供します。
評価指標	生態系調査による在来生物の種類、フォーラムの開催 交流活動（エコツアー等）
現行の分野	自然分野
現行プロジェクト	「おらが川」人が親しめるきれいな川づくり
評価・再編	エコ遊覧、清掃活動、生態調査、ビワマスを戻す取り組み、各種表彰 現在の活動を継続

No.8 里山を守り育てるプロジェクト

方針	里山の環境保全 生物多様性の維持・向上
内容	里山づくりの推進、森林資源の活用促進、 外来種の駆除、希少生物の保護
主体	◎市民 ○事業所 ◎市
取り組み	○里山の適正な環境を維持・保全します。 ○生産森林組合との連携により、森林資源の有効な活用を図ります。 ○里山の機能を理解するための情報提供やイベント等を行います。
評価指標	森林資源の有効活用 里山に親しむ活動事業の実施
現行の分野	自然分野
現行プロジェクト	野洲の里山の自然に触れよう、知ろう 野洲の自然を次世代につなぐ「自然案内人」を増やそう 山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう 三上山をはじめとする、野洲ならではの景観を守り育てよう
評価・再編	地元生産森林組合と連携し、定期的に里山保全活動（林道、登山道整備等） 市民団体による案内人活動、森づくり塾の実施。 統合し再編

No.9 びわ湖を守ろうプロジェクト

方 針	琵琶湖岸の環境保全 生物多様性の維持・向上
内 容	水環境の保全 外来種の駆除、希少生物の保護
主 体	◎市民 ○事業所 ◎市
取り組み	○ヨシ群落を復活させ、水質浄化や湖岸の侵食防止を図ります。 ○琵琶湖環境の保全意識を啓発するための活動を行います。 ○琵琶湖の現状や内湖の機能を理解したうえで、環境保全の気運を高めます。
評価指標	ヨシ群落の復元面積、交流活動（体験会、講座、イベント）、 漁民の森づくり事業による植樹面積
現行の分野	自然分野
現行プロジェクト	葦地帯をみんなで増やそう 琵琶湖を身近なものにしよう 内湖の復活で琵琶湖を守ろう
評価・再編	葦の定着面積の把握、交流活動（体験会、講座、イベント）、漁民の森づくり事業 現在の活動を継続

No.10 環境にやさしい農地の活用プロジェクト

方 針	農地の保全 生物多様性の維持・向上
内 容	環境配慮型農業の推進、有害鳥獣対策
主 体	○市民 ○事業所 ◎市
取り組み	○環境保全型農業や、環境に配慮した農産物を推進します。 ○エコファーマー農家を紹介し、環境にこだわった農産物を広めます。 ○有害鳥獣の捕獲に取り組み、農産物被害の軽減を図ります。
評価指標	環境こだわり認証者、エコファーマー農家の増加、 交流活動（イベント、市内小学校を対象とした学習の場）の実績、 無農薬有機栽培や自然栽培の米づくりを行う研修会の実施 ゆりかご水田実施状況
現行の分野	自然分野
現行プロジェクト	環境保全型農業推進計画
評価・再編	自然観察会の実施、無農薬農業研修会 ゆりかご水田 現在の活動を継続

3. 重点プロジェクトの提案

基本目標

施策の方針

施策の内容

基本理念
めざすべき
環境像

(※仮) 里山から琵琶湖へ、

みんなで育むやさぎのまち やす

基本目標4 環境学習の推進
による市民活動の促進

(1) 環境学習の推進

ライフステージに応じた
環境学習の充実

(2) 環境活動団体への支援

学び場の提供や活動情報の発信

(3) 普及・啓発の担い手の育成・継承

活動団体・活動指導者と市民
とを結びつける体制整備

重点プロジェクト(案)

11.みんなで環境学習プロジェクト

12.環境活動支援プロジェクト

No.11 みんなで環境学習プロジェクト	
方針	環境学習の推進、 普及・啓発の担い手の育成・継承
内容	ライフステージに応じた環境学習の充実 活動団体・活動指導者と市民とを結びつける体制整備
主体	○市民 ○事業所 ◎市
取り組み	○生涯にわたり、身近な環境から地球規模の環境まで、広く知識を習得する機会を増やし、市民が自ら環境保全に取り組む意欲の増進を図ります。 ○市民や事業者が環境学習を行うための、情報の共有化を図ります。 ○市民、行政、事業所並びに大学などの教育機関と連携し、普及啓発活動、調査研究活動を行います。
評価指標	出前講座、学習会、イベントの実施・実績
現行の分野	エコ・資源分野 まち・くらし分野
現行プロジェクト	みんなで進める環境学習 「環境共育支援ネットやす」の設立と運営 きらりと光る野洲の自然、まち、人応援プロジェクト
評価・再編	実施できていない部分あり 出前講座、学習会、イベントの実施 統合し再編

No.12 環境活動支援プロジェクト

方 針	環境活動団体への支援 普及・啓発の担い手の育成・継承
内 容	学び場の提供や活動情報の発信 活動団体・活動指導者と市民とを結びつける体制整備
主 体	○市民 ○事業所 ◎市
取り組み	○市民（市民団体）や事業所、学校、行政等が各地域で行なっている環境活動を広く情報共有・発信し、各団体間の相互交流を促進します。 (※)○新クリーンセンターを拠点とし、さまざまな講座や交流を催すことで、普及・啓発を図る担い手の育成に取り組みます。
評価指標	出前講座、学習会、イベント実績、広報やホームページでの情報発信、環境活動団体への補助金交付、環境活動拠点の整備・運営
現行の分野	エコ・資源分野 まち・くらし分野
現行プロジェクト	「こんなエコな店あるよ！」ガイドブック作成事業 「環境共育支援ネットやす」の設立と運営 きらりと光る野洲の自然、まち、人応援プロジェクト
評価・再編	実施できていない部分あり 出前講座、学習会、イベントの実施 統合し再編

※平成28年10月1日供用開始のごみ焼却施設を対象とする。

4. 重複事業の統合による実効化（案）

4. 重複事業の統合による実効化（案）

※新プロジェクトは、現行プロジェクトを統合し、新たに立ち上げる項目も盛込んでいる

分野	新プロジェクト	現行プロジェクト
生活環境	健康で快適な暮らしを守るPJ (新)きれいなまちを守るPJ	事業所環境保全取り組み向上
	まちなかの緑づくりPJ	まちなかの緑ボリュームアップ大作戦 河畔林の再生 鎮守の森再生
	ごみの資源化PJ	天ぷら油を捨てずにエネルギー(BDF)化しよう お得で楽しいリユースステーションをつくろう
循環型・ 低炭素社会	ごみ減量PJ	ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち 生ごみ資源化システムづくり
	地球温暖化対策推進PJ	バス利用大作戦 自動車を利用しなくても、安心安全安でクリーンな市内移動 が楽しめる交通体系整備 一人ひとりが自動車社会を見直す「1ドライブ活動」
	生きものを育む川づくりPJ	「おらが川」人が親しめるきれいな川づくり
自然環境	里山を守り育てるPJ	野洲の里山の自然に触れよう、知ろう 野洲の自然を次世代につなぐ「自然案内人」を増やそう 山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう 三上山をはじめとする、野洲ならではの景観を守り育てよう
	びわ湖を守ろうPJ	琵琶湖を身近なものにしよう 葦地帯をみんなで増やそう 内湖の復活で琵琶湖を守ろう
	環境にやさしい農地の活用PJ	環境保全型農業推進計画
	みんなで環境学習PJ	みんなで進める環境学習 きらりと光る野洲の自然、まち、人応援PJ 「環境共育支援ネットやす」の設立と運営
環境学習・ 市民活動	環境活動支援PJ	きらりと光る野洲の自然、まち、人応援PJ 「環境共育支援ネットやす」の設立と運営 「こんなエコな店あるよ！」がドアップ作成事業

次回の審議内容

- ⇒計画の進行管理と検証の方法
- ⇒骨子（案）の確認

野洲市 環境経済部 環境課